

国語

試験時間 四十分

「解答はじめ」の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。

【注意事項】

- この試験は、すべてマークシート方式です。
- 問題冊子の中に、解答用紙があります。試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れなどに気付いた場合は、手をあげて監督者に知らせなさい。
- マークシート記入上の注意

- マークはHBの黒鉛筆で、(例1)の良い例のように枠の中をぬりつぶしなさい。
- 受験番号は、(例2)に従って記入し、それぞれの番号をマークしなさい。
- 解答の記入方法は、たとえば「ア」と表示のある問いに対し「2」と解答する場合には、(例3)のように「ア」のマーク解答欄にマークしなさい。
- 訂正するときは、消しゴムできれいに消し、マークシート上に消しくずを残してはいけません。

(例1) マークの仕方 (例2) 受験番号 1202の場合 (例3) 解答の記入方法

良い例	
悪い例	

受験番号			
1	2	0	2

問題	マーク解答欄				
ア	1	2	3	4	5

四 「解答やめ」の指示で記入をやめ、筆記用具を机上に置きなさい。

五 「解答用紙」だけを監督者が回収します。指示があるまで着席していなさい。

問六 次の①から⑤までの中から本文の内容と合致するものを一つ選んで、メにマークしなさい。

- ① 長兵衛は、質に入れた品物を引き取りに来た人から最低限の利息しか取らず、それすら払えない人からは利息をとらなかつた。
- ② 長兵衛は、自分の持ち家を借りている人に酒と金を持って挨拶に行き、無駄遣いせず暮らすよう諭すことを習慣にしていた。
- ③ 長兵衛は、ふだんから人の顔を見るのはぶしつけだと思っていたので、道で知り合いに出会っても気づかないことが多かった。
- ④ 長兵衛は、家業の質屋をやめて薬屋として生計を立てており、書き切れないほどの善行を積んだ、誠実で謙虚な人であった。
- ⑤ 長兵衛は、子どものころから学問が好きで文章を書く才能にも恵まれていたため、人々から宛丘と呼ばれて敬われていた。

1 次の文章を読んで、後の問一から問十三にそれぞれ答えなさい。

昔の日本人は今の日本人とは違った歩き方をしていたという、たいいていの人は驚く。^(I)昔の日本人は、手足を互い違いに出す今のような歩き方はしていなかった。右手右足を同時に出す、いわゆるナンバのかたちで歩いていたのである。腰から上を大地に平行移動させるようにして、^(a)摺り足で歩いていた。いまでも、能や歌舞伎、^(b)剣道などにはこの歩き方が残っている。

なぜこのような歩き方をしていたかといえば、生産の基本が農業、それも水田稲作にあったからである。稲の生育を注意深く見守るためには、走ったり跳んだりすることは無用だった。事実、いまでも、^(d)浮き足立つとか跳ね上がるとかいう言葉は、日本語では悪い意味である。^(e)西洋のたとえばバレエでは、浮き足立ったり、跳ね上がったりにしないことには踊りにならない。バレエは、遊牧を生産の基本とする文明によって育まれたのである。摺り足ナンバでは、馬に乗って羊を追う仕事など、^(f)むろんでははしない。^(I)

バレエはヨーロッパの古典舞踊ということになっているが、その原型は中央ユーラシアの遊牧民の舞踊にある。いまでも、チベットやモンゴルの踊りに、バレエとまったく同じ所作を見いだすことができる。他方、能に象徴される摺り足ナンバの舞踊は、水田稲作を生産の基本とする東南アジア一帯に広く見られる。インドネシア、タイ、ベトナム、^(h)沖繩、日本と広がる舞踊文化の豊かさには目を見張るが、それを貫くのは、⁽ⁱ⁾摺り足ナンバという身体所作である。^(II)

昔の日本人はと言ったのは、むしろ、今の日本人は西洋人と同じ歩き方、同じ走り方をするようになってしまったからである。というより、^(II)いまや、世界中どこでも同じような歩き方、走り方をするようになってしまったのだ。産業革命以降、生産の基本が、農耕でも遊牧でもない、工業に移行してしまつたからである。言つてしまえば、産業革命は均質な商品だけではない、均質な身体をも大量に生み出したのである。^(III)

こういうことを話すと、じつは日本人以上に、西洋人が驚く。それもかなり激しい驚き方をする。考えてみれば当然で、日本人の身体は、ここ一世紀のあいだに⁽⁴⁾極端に変わった。わずか数世代のあいだに、水田稲作型の身体から、工業型の身体へと急激に変わったのである。一身にして二世を経ると言つたのは福沢諭吉だが、文字通りの一身に、洋の東西を体現するようなものだ。むしろ、西洋においても変化がなかったわけではない。が、遊牧型の身体から工業型の身体への移行はよりなだらかだったと言つていい。日本人のほうが、はるかに変化に自覚的でありえたわけである。^(IV)

けれど、その日本人にしても、変化をたんなる数値的なものとして受け取りがちである。食生活が変わり、⁽⁵⁾畳の生活から椅子の生活へと移つて、日本人の体型も西洋人なみになってきたというようである。実際は、身体のかたち以上に、その所作において激しい変化が起こっていたにもかかわら

ず、そういうことはなかなか気づかれない。昔の日本人は今の日本人とは違う歩き方をしていたと聞いて、たいていの日本人が驚くのがその良い例である。歩き方だけではない。笑い方も泣き方も、話し方も歌い方も、微妙に変化してきているのである。

今の日本人は昔の日本人以上に身振りが大きくなってきている。表情が明確になり、派手になってきている。おそらく、年配の方の多くがそう感じているだろう。昔はむやみに感情を表すのは下品とされたが、今ではまるで逆であるというように。五

こういう述懐が端的に示すのは、IV 身体所作の変化は個人の問題ではなく集団の問題だということである。たとえば両手を広げて（k）をすくめたりする仕草は、昔はまったく見られなかったが、今ではよく見かける。（k）で風を切って歩く女性にしてもそうだ。人は身体所作を、他人に対する、（l）自分自身に対するひとつの表現として、あたかも言語のように用いているのである。それは、習得され伝播する、ひとつの文化なのである。

とすれば、人は意識において考えるよりも先に、まず身体において考えているというべきだろう。ある身体所作の体系を採用したその段階において、人の身体は、意識よりも先にすでに考えはじめているのだ。少なくともある種の考え方、思考の流儀を採用しているのである。そういえば、十九世紀の小説の高手たちは、登場人物を描くにあたって、何よりも、その顔かたちと身ごなしを克明に描きだしていた。思想はまずその身体に現われると直観していたに違いない。

（三浦雅士『考える身体』河出書房新社による）

①	a	連体詞	c	代名詞	f	副詞	j	形容動詞	m	助動詞
②	a	連体詞	c	連体詞	f	副詞	j	形容動詞	m	助動詞
③	a	副詞	c	代名詞	f	連体詞	j	形容動詞	m	助詞
④	a	連体詞	c	連体詞	f	連体詞	j	名詞+助詞	m	助詞
⑤	a	副詞	c	連体詞	f	副詞	j	名詞+助詞	m	助動詞

問一 傍線部（a）「いわゆる」・（c）「この」・（f）「むろん」・（j）「極端に」・（m）「ように」の品詞の正しい組み合わせを次の①から⑤までの中から一つ選んで、アにマークしなさい。

問三 傍線部（c）・（f）とある。それらの具体的な内容として最も適切なものを後の①から④までのの中からそれぞれ一つずつ選んで、ホ・マにマークしなさい。

（c）年ごろ蔵の中にたくはへつめたるもの

〔解答記入欄 ホ〕

- ① 長年質屋でもうけたお金で買った品物。
- ② 長年質屋を営む間に客から預かった品物。
- ③ 最近手に入れて質屋の蔵に置いておいた品物。
- ④ 質屋をやめたあとずっと蔵に残っていた品物。

（f）その事

〔解答記入欄 マ〕

- ① 蔵の中にあつた品物を持ち主に返すこと。
- ② 蔵の中を片付けて品物を全て手放すこと。
- ③ 蔵の中にあつた品物をほしい人に分けること。
- ④ 蔵の中を整理して品物を見つけやすくすること。

問四 傍線部（g）「年ごとに行き通ひて耕し帰り」とある。その理由として最も適切なものを次の①から④までの中から一つ選んで、ミにマークしなさい。

- ① 先祖に米をささげて感謝の気持ちを表すため。
- ② 貧しい人たちの一年分の食べ物を確保するため。
- ③ 自分がかつともとは農民だったことを忘れないため。
- ④ 体がなまらぬように運動するため。

問五 傍線部（k）「久保町より原宿村へ通ふ道の橋朽ちぬれば」とある。この状況に対して長兵衛は何をしたか。最も適切なものを次の①から④までの中から一つ選んで、ムにマークしなさい。

- ① 町の者たちから寄付を募り、不足分を自分で補って橋を石橋にかけ直した。
- ② 私財を投じて橋を石橋にかけ直し、町の財政に負担をかけないようにした。
- ③ 費用は長兵衛が出し、町の者たちと力を合わせて橋を石橋にかけ直した。
- ④ 町の者たちと相談して橋を石橋にかけ直すことにして、費用を全額負担した。

問一 傍線部(a)・(e)・(h)・(i)・(j)の主語の組み合わせとして最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、**ヒ**にマークしなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----|---|-----|---|-----|---|------|---|------|
| ① | a | 長兵衛 | e | 長兵衛 | h | 借家人 | i | 同輩ども | j | 同輩ども |
| ② | a | 長兵衛 | e | 人 | h | 借家人 | i | 長兵衛 | j | 同輩ども |
| ③ | a | 人 | e | 長兵衛 | h | 長兵衛 | i | 同輩ども | j | 長兵衛 |
| ④ | a | 人 | e | 長兵衛 | h | 長兵衛 | i | 同輩ども | j | 同輩ども |
| ⑤ | a | 人 | e | 人 | h | 長兵衛 | i | 長兵衛 | j | 長兵衛 |

問二 傍線部(b)・(d)の口語訳として最も適切なものを後の①から④までの中からそれぞれ一つずつ選んで、**フ**・**ヘ**にマークしなさい。

(b) 道ならぬ事よ
 「解答記入欄**フ**」

- ① 思うように生きる道を選べないことであるよ
- ② 人を守るべき法律に背くやり方であることよ
- ③ 他にいい方法がないか悩ましいことであるよ
- ④ 人として守るべき条理に外れたことであるよ

(d) 本をも利をもとらずして
 「解答記入欄**ヘ**」

- ① 元金も利息も後払いにして
- ② 元金だけもらい利息はもらわないで
- ③ 元金も利息ももらわないで
- ④ 元金はもらわず利息だけもらって

問二 空欄(b)・(e)・(h)・(l)に入る言葉の正しい組み合わせを次の①から⑤までの中から一つ選んで、**イ**にマークしなさい。

- | | | | | | | | | |
|---|---|------|---|------|---|-----|---|-----|
| ① | b | あるいは | e | ただし | h | または | l | また |
| ② | b | あるいは | e | ところが | h | または | l | しかし |
| ③ | b | そして | e | ただし | h | さらに | l | しかし |
| ④ | b | あるいは | e | ところが | h | さらに | l | また |
| ⑤ | b | そして | e | ところが | h | または | l | しかし |

問三 傍線部①から⑤の「の」について、次の1、2に答えなさい。

- 1 傍線部①から⑤の「の」の中に一つだけ用法が異なるものがある。それを選んで、**ウ**にマークしなさい。
- 2 1で選んだ「の」と同じ用法のものを、次の①から⑤までの中から一つ選んで、**エ**にマークしなさい。

- ① 姉の描いた絵を壁に飾る。
- ② さつき来たのは弟の次郎だ。
- ③ 昆虫の好きな少年に会った。
- ④ このクイズは解くのが難しい。
- ⑤ 兄は数学の教師をしている。

問四 傍線部(d)・(i)の言葉の本文中の意味として最も適切なものを後の①から⑤までの中からそれぞれ一つずつ選んで、**オ**・**カ**にマークしなさい。

(d) 浮き足立つ
 「解答記入欄**オ**」

- ① 他人の失敗をからかう
- ② 気の向くままに進む
- ③ 落ち着きがなくなる
- ④ 他人の隙を突いて邪魔する
- ⑤ 緊張して動けなくなる

(i) 目を見張る

〔解答記入欄カ〕

- ① 感心する
- ② あやしむ
- ③ 配慮する
- ④ 疑問をもつ
- ⑤ あきれる

問五 傍線部(g)「いまでも」が直接かかる一文節として最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、**キ**にマークしなさい。

- ① チベットや
- ② 踊りに
- ③ 同じ
- ④ 見いだす
- ⑤ できる

問六 空欄(k)に入る最も適切な言葉を次の①から⑤までの中から一つ選んで、**ク**にマークしなさい。ただし、二箇所ある(k)には同じものが入る。

- ① 肘
- ② 身
- ③ 首
- ④ 肩
- ⑤ 胸

3 次の古文を読んで、後の問一から問六にそれぞれ答えなさい。

青やま久保町に長兵衛といへる者あり。幼きより書をよむ事を好み、業をひさぎて世をわたれり。もとは質屋なりしが、人のおぎのるものをうけて金をかしあたへ、つぐのふ時にはそこばくの利銀をそへしむ。或はつぐのふとき過ぐればその物をとどめて返さず、外に売りしろなして徳つく事をはかれるは道ならぬ事よと思ひて、年ごろ蔵の中にたくはへつめたるものを改め、きはめて貧しくかねをもつぐのひがたき者には、本をも利をもとらずしてその物を返しけり。或は外にうつろひなどして、そのぬしのしれがたきものも兎角して尋ねもとめ、やうやう三とせ経てその事終はり、今の家業にかへしとぞ。近江の国に田地を持ちけるが、年ごとに行き通ひて耕し帰り、秋みのりし米を得て先祖の霊前にすすめて後、おのれが一年の食料とはなせり。これおのが身の農家より出て市人となれるをもて、そのもとをわすれざる心なるべし。おのが借家をかりてすむ者、家賃のおひめ多く、おのづからすむ事もならで外に移りなどする者あれば、遠き近きを撰はず、酒一壺に金壹分を添へて持ち行き贈り、「いづくにありても、借りたる家の賃銭おひめ多ければすみがたかるべし、つとめてうきたる費をはぶきていとなみに怠り給ふな」と、深くいましめ帰る事も有りしとなん。その人となり実義にして、人を敬ふ事厚し。同輩どものいふにも、両手をつきて人の面を見ず。「もし道にゆきあひし時見すぐす事もあらばゆるし給ひてよ」と、つねに人々にいひき。久保町より原宿村へ通ふ道の橋朽ちぬれば、町の者の力を合はせて掛けることなるを、己が力ひとつにて石橋にかけ直し、長く町の費をはぶく。かかるたぐひのよき行ひ書きつくすべからず。学問など好む事も深く人に隠したりしが、のちのちには文章をもよく作りて、みづから宛丘と号せしなり。

(『仮名世説』による)

- (注)
- 青やま久保町 現在の東京都港区辺り。
 - おぎのる 物を質に入れる。
 - つぐのふ 返済する。
 - 徳つく もうける。
 - うつろひ 移転する。
 - 近江の国 現在の滋賀県辺り。
 - おひめ 負担。
 - 実義 真心や誠意があること。
 - 原宿村 現在の東京都渋谷区辺り。

問三 次の1から4の作品を成立順に並べたものを後の①から⑤までの中から一つ選んで、ハにマークしなさい。

- 1 枕草子 2 竹取物語 3 日本永代蔵 4 平家物語

①	1	1	2	4	3
②	1	4	3	2	
③	2	3	1	4	
④	1	3	4	2	
⑤	2	1	4	3	

問七 傍線部（I）「昔の日本人は、手足を互い違いに出す今のような歩き方はしていなかった」とある。その理由として最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、ケにマークしなさい。

- ① 昔の日本人は水田稲作を主な生業なりわいとしており、また能や歌舞伎などが身近だったため、摺り足ナンバ以外の歩き方は知らなかったから。
- ② 昔の日本人は遊牧を生業とするより水田稲作を生業としている人が多かったため、馬に乗りやすい歩き方が広まらなかったから。
- ③ 昔の日本人は水田稲作が主な生業であり、遊牧民のように走ったり跳んだりする歩き方では稲の生育を見守るのに不都合だったから。
- ④ 昔の日本人は馬に乗って羊を追うような仕事をしていなかったために重心が下にあり、しつかり大地を踏みしめることができたから。
- ⑤ 昔の日本人は水田稲作を主な生業として安定した暮らしを営んでいたため、走ったり跳ねたりするせわしない動作は嫌がられたから。

問八 傍線部（II）「いまや、世界中どこでも同じような歩き方、走り方をするようになってしまったのだ」とある。その理由として最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、コにマークしなさい。

- ① 産業革命以降、生産の基本が工業に移行し、農耕や遊牧を行ううえでも西洋人と同じ動きが効率的と思われるようになったから。
- ② 産業革命の影響で生産の基本が工業に移ったことにより、土地に根ざした生業に基づく身体の動きが失われたから。
- ③ 産業革命により工業が発展し、世界中の暮らしが均質化されて西洋式になったため、土地ごとの特徴が消えたから。
- ④ 産業革命の影響で生産の基本が完全に工業に移行するより先に、身体のかたち自体が世界中で同じようになったから。
- ⑤ 産業革命により世界中どこでも工業が生産の基本となったため、その発祥の地である西洋式の動きを皆がまねるようになったから。

問九 傍線部(Ⅲ)「日本人以上に、西洋人が驚く」とある。その理由として最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、**サ**にマークしなさい。

- ① 水田稲作型の身体から工業型の身体への変化は急激だったため日本人は自覚して積極的に変化に臨んだが、西洋人は無意識のうちに変化していたから。
- ② 遊牧型の身体から工業型の身体への移行は緩やかに行われたため対応が楽だった西洋人からすると、急激な変化に日本人が対応できたのは意外だったから。
- ③ 水田稲作型の身体から工業型の身体への変化は、伝統と近代の二つの生き方を同時に生きる日本人にとっては当たり前だが西洋人にはそうではなかったから。
- ④ 遊牧型の身体から工業型の身体への変化は緩やかに行われたため、西洋人は自分たちの身体の方が変化したことを自覚していなかったから。
- ⑤ 遊牧型の身体と工業型の身体はいずれも西洋人の文明から生まれたものなので、西洋人からすると身体の方が変化したとは思っていなかったから。

問十 傍線部(Ⅳ)「身体所作の変化は個人の問題ではなく集団の問題だ」とはどういうことか。最も適切なものを次の①から⑤までの中から一つ選んで、**シ**にマークしなさい。

- ① 今の日本人は昔の日本人以上に身振りが大きくなってきており、体型も西洋人なみに立派になっているが、それは社会全体が豊かになったことによるということ。
- ② 今の日本人は昔の日本人と異なり、身振りが大きく派手で、感情を明確に表情に出すようになっており、集団生活を送るために効率的になってきているということ。
- ③ 今の日本人の所作は昔の日本人の所作をよしとする年配者には受け入れられたいが、社会が西洋の価値観を受け入れたため、個人の好悪は問題にならないということ。
- ④ 今の日本人は昔の日本人とは違う歩き方をするようになり、それ以外の動作や態度も日本人らしくなくなっているが、それは日本が世界標準にあわせた結果だということ。
- ⑤ 今の日本人は昔の日本人とは所作が異なり、感情を表すことに対する感覚も変化しているが、その変化は文化のように集団のなかで共有されて広まっていくということ。

5 背中をノばして姿勢を正す。

〔解答記入欄ト〕

- ① 税関で荷物をシンコクする。
- ② 彼は礼儀正しいシンシだ。
- ③ 台風で床上までシンスイする。
- ④ 人権のシンガイを非難する。
- ⑤ 準備運動でひざをクツシンする。

問二 次の1から5の傍線部を漢字と送り仮名に正しく改めたものを後の①から④までの中からそれ

ぞれ一つずつ選んで、**ナ**から**ノ**にマークしなさい。

1 引っ越しが**決ま**ってイソガシイ。

〔解答記入欄ナ〕

- ① 忙そがしい ② 忙がしい ③ 忙しい ④ 忙い

2 うっかり間違**っ**てしまい、ハズカシイ。

〔解答記入欄ニ〕

- ① 恥ずかしい ② 恥かしい ③ 恥しい ④ 恥い

3 私がご要望をウケ**タ**マワル。

〔解答記入欄ヌ〕

- ① 承たまわる ② 承まわる ③ 承わる ④ 承る

4 この二つはよく似**て**いてマギラワシイ。

〔解答記入欄ネ〕

- ① 紛らわしい ② 紛わしい ③ 紛しい ④ 紛い

5 他人の手を**ワズ**ラワセルことは避けたい。

〔解答記入欄ノ〕

- ① 煩らわせる ② 煩わせる ③ 煩せる ④ 煩る

2 次の問一から問三にそれぞれ答えなさい。

問一 次の1から5の傍線部と同じ漢字が用いられているものを後の①から⑤までの中からそれぞれ一つずつ選んで、**タ**から**ト**にマークしなさい。

1 匠たくみの技で刀をキタタえる。

〔解答記入欄**タ**〕

- ① ダイタンタな筆致で絵を描く。
- ② 美しいタンタモノを店頭タに並べる。
- ③ 日頃のタンタレンの成果を發揮する。
- ④ タンタネンに活動記録をつける。
- ⑤ 坑道タを通ってセキタンタを運び出す。

2 当面の間、現状をイジチする。

〔解答記入欄**チ**〕

- ① 事件のケイイチを整理する。
- ② 専門家に講演をイライチする。
- ③ イチヨウチの調子がよくなる。
- ④ 熱に強いセンイチを使用する。
- ⑤ 歴史的なイギョウチを成し遂げる。

3 古美術品をカンツテイツしてもらおう。

〔解答記入欄**ツ**〕

- ① 庭の花を植物のズカンツで調べる。
- ② 家に客を招いてカンツタイする。
- ③ プレゼントをコウカンツする。
- ④ 新入生を野球部にカンツユウする。
- ⑤ 選挙に向けて世論をカンツキする。

4 研究のリョウイテキテを広げる。

〔解答記入欄**テ**〕

- ① リョウジュウテの手入れをする。
- ② 妹はヨウリョウテよく仕事を進める。
- ③ 彼はカンリョウテ出身の大臣だ。
- ④ この辺りはキュウリョウテ地帯だ。
- ⑤ おとなしくリョウヨウテ生活を送る。

問十一 次の部分は本文中の**一**から**五**のどこに入るか。後の①から⑤までの中から一つ選んで、**ス**にマークしなさい。

学校、軍隊、工場は、そういう身体だけを必要としたのだ。

- ① **一**
- ② **二**
- ③ **三**
- ④ **四**
- ⑤ **五**

問十二 次の①から⑤までの中から本文の内容と合致するものを一つ選んで、**セ**にマークしなさい。

- ① 西洋化した今の日本では、昔のように腰から上を大地に平行移動させるようにして摺り足で歩くような歩き方をする人はいない。
- ② チベットやモンゴルは西洋の産業革命の影響をあまり受けておらず、現代でも遊牧を生産の基本とする文明が残っている。
- ③ 食生活を始めとする環境の変化に伴い、日本人の体型は大幅に変化し、その影響で所作も微妙に変化してきている。
- ④ 人間の身体の所作は文明と深く結びついており、その変化は共同体において習得され広まってひとつの文化を形成する。
- ⑤ 摺り足ナンバという身体所作に支えられた舞踊は、バレエのようなヨーロッパの古典舞踊よりも豊かな文化を感じさせる。

問十三 次の文章は、本文と同じ著書の一部である。二つの文章について生徒Aがまとめた【ノートの一部】の空欄(1)・(2)に入る言葉の正しい組み合わせを、後の①から⑤までのの中から一つ選んで、☐にマークしなさい。

想像力といえは、意識の問題と考えられがちだが、そうではない。それはまず身体の問題なのだ。身体がまず他人の身体になりきるのである。その運動、その緊張、その痛みを分け持ってしまう。想像力の基盤は身体にあるとさえ言いたいほどである。

模倣もまた身体の想像力のひとつと考えるといい。人は、歩き方、走り方、泳ぎ方を習うが、教科書によってではない。身体を介して習うのである。実際、子供は、教えるよりも先に真似ている。身体の想像力は、意識の想像力を上回る。稽古事の経験者ならば誰でも思いあたるだろうが、言葉による注意は、身体の想像力のきっかけにすぎない。

舞踊に関心を持つようになってはじめて、以上の事実に気づいた。人はなぜダンスを見るのか。何よりもまず身体そのものが、他人の身体と同調したいからなのだ。舞台を見ると、人は、ダンサーとともに踊っているのである。回転し、跳躍しているのである。だからこそ、見終えた後に、快い疲労を覚えるのだ。また、だからこそ、より美しく舞うもの、より華やかに踊るものに惹かれるのである。スポーツにしても同じだ。人は、より強い、より速い、より美しいフォームに惹かれる。身体の想像力の限界を試そうとでもするように、人は舞台を見る。試合を見る。見ているのは目ではない。身体なのだ。

(三浦雅士『考える身体』河出書房新社による)

【ノートの一部】

本文で述べている「(1) (2)」ということについて、右の文章では、稽古事の具体例を挙げて、「身体の想像力は、意識の想像力を上回る」と言いかえている。そして、筆者は舞踊への関心を通して、人は舞台や試合を見ると、(2) のだと述べている。

- ① (1) 人は、ある身体所作の体系を採用することで思考している
- (2) 想像力の限界を超えて無意識に演者や選手に同調しようとする
- ② (1) 人の身体は、ある種の考え方や思考の流儀を採用している
- (2) 無意識に自分を選手や演者に重ねて批評している
- ③ (1) 人は、思想を現わすために身体所作を採用している
- (2) 演者や選手の身体と同調したいと願う
- ④ (1) 人の意識や思想は、はじめにその身体に現われる
- (2) 無意識に選手や演者に惹かれる
- ⑤ (1) 人は、意識よりも先にまず身体において考えている
- (2) 演者や選手の身体と同調して、自らの身体で見ている